

本店レク 議事メモ

日時：平成23年4月23日（土）11:15～12:05

場所：東京電力本店1階101A/B会議室

先方：記者約45名（カメラ7台）

当方：原子力設備管理部 [REDACTED]

原子力運営管理部 [REDACTED]

広報部 [REDACTED]

配付資料

- ・福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ（水位・圧力・温度などのデータ）
- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて【4月23日 午前9時現在】タ）
4月23日 07:00 現在
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 等
- ・集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果(4/22 現在)
- ・福島第一原子力発電所事故対策統合本部の共同記者会見の実施について

冒頭、[REDACTED]から本日の作業予定等について説明。また、昨日の会見時に未回答であった内容について等について回答。

質疑：

Q. 地下水が敷地外から出でていかないような措置については検討しているのか。1
～4号機全て実施するのか。

A. 規模も含めて検討している段階。

Q. 炉内への注水量が減っているがどのように評価しているのか。

A. 3号機はホースを換えているが、他の号機についても状況が分かればお知らせさせていただく。パラメータが安定しているため、大きな問題が無いものと考えている。

Q. 1号機の格納容器に水が溜まりつつあるが、格納容器に水が溜まることに関する健全性は確認できているのか。

A. 格納容器に水を入れることも含めて設計しているが、現状の健全性評価については、必要があれば改めて評価する。

Q. 事故発生当時の対応手順書を公表して欲しい。「海水注入のタイミングがベストであった」というのであれば、それを証明するために、まずは手順書を公表して欲しい。

A. 当社としては状況の収束に向けて全力を挙げているところ。事故発生時の経緯については今後、事故調査委員会で明らかになるかと思われる。手順書の公表については検討させていただく。

Q. 格納容器の水の漏洩確認については、原子炉建屋内に入れないから確認できていないということか。原子炉建屋に入れないと水位を上げられないのか。

A. 建屋内に入って評価するかどうかも含めて検討しているところ。

Q. どのくらいの速度で水位が上がっているのか。

A. 具体的に評価できていない。

Q. 1号機格納容器の水位はどの程度か。また、どのように判断したのか。

A. 窒素封入量と圧力の状況で大まかに判断すると、格納容器の球体上部分の真ん中付近と考えている。圧力容器下部まで到達すると設置している温度計の温度が下がるため確認はできる。

Q. 一番高い方の被ばく線量はどの程度か。

A. 198.24mSv。

Q. その人は現場に出ていないのか。100mSvを超えた人は現場に出さないようにしているのか。

A. その方（被ばく線量 198.24mSv の方）は現場に出ていない。100mSvを超えたらすぐに現場に出さないようにするわけではなく、作業予定等を踏まえて判断している。

Q. 経産省から、今後、余震の可能性があるので現在の原子炉建屋の耐震性について評価するよう指示があったかと思うが、調査の進捗状況は。また、1号機の燃料上部まで格納容器を水で満たした状態の耐震評価についても、確認項目に含まれているのか。

A. 確認させていただく。

Q. 原子力安全・保安院は、「(1号機の格納容器の水位は) 貫通部の電線の傾向変化から真ん中（球赤道）を少し超えた」と発言しているようだが事実か。

A. 確認させていただく。

Q. サブドレン水の核種分析結果をどのように評価しているのか。

A. ヨウ素 131 の濃度が 2.1Bq/cm^3 出ているが、他の値に変動がないため、漏洩があったわけではないと考えている。

Q. 2.1Bq/cm^3 程度の濃度は特段異常な値ではないのか。

A. 各号機のサブドレンでも同じ様に数 Bq ~ 数十 Bq 出ているため、現時点では漏洩しているとは考えていない。

Q. 1号機のこれまでの注水量は。注水実績と格納容器に溜まっている水の量は等しいのか。

A. 22日の朝の段階で 7,000 リットル程度注水している。格納容器に溜まっている水の量については確認させていただく。

Q. 仮設タンクの設置状況は。

A. 仮設タンクは、5月までに約 13,000 トン、6月以降に順次毎月 20,000 トン、7月を目途に高レベル用タンク 10,000 トンに保管していく予定。それ以外にもパージ船が約 2,200 トン、メガフロートが約 10,000 トンのものを用意する計画。

Q. それらは発注済みか。

A. 発注済みかと思うが確認させていただく。

Q. 1~3号機の格納容器の容量は。

A. 格納容器のベント管を含むと、1号機は $3,410 \text{m}^3$ 、2号機は $4,240 \text{ m}^3$ 、3号機 $4,240 \text{m}^3$ 。圧力抑制室の容量は確認中。

Q. 作業員の被曝について。どのように管理しているのか。

A. 法令で定められた限度が 250mSv 。これに併せて、各協力企業の考え方を踏まえて線量管理を行っている。

Q. 100mSv を超えた作業員が 30 名となったが、今後の人繋りへの影響はないのか。

A. 一概には言えない。

Q. 6月以降に順次約 20,000 t とのことだが、何月まで毎月約 20,000 t のタンクを設置するのか。

A. 確認する。

Q. 仮設のタンクの設置について、以前の説明では4月末までに 12,000 t、これに加えて5月末で 27,000 t としていたが、5月までに約 13,000 t、6月以降に順次毎月 20,000 t に変わった理由は何か。

A. 確認する。

Q. 2号トレーナーは、移送しているにもかかわらず水位に変化がないことについてどのように見ているのか。

A. 2号トレーナーへの流入経路が何かしらあると考えることが自然。

Q. 今後、特定の作業で線量が高いなどして専門分野の作業員が不足することがあると思うが、将来的な人員計画等はどのように考えているのか。

A. 作業自体が決まっていないので回答できない。まずは作業環境を良くしているところ。

Q. 1日の作業員数について、6時30分時点ではなく、1日の総数を教えてもらいたい。

A. 確認する。

Q. 7月に高レベル汚染水の貯蔵タンクを設置する目途がついたということか。また、高レベルとはどの程度の線量のものまで入れられるのか。

A. 高レベルだからといって線量を防護するようなタンクということはない。人と距離をおいたところへの設置、耐震上の配慮などして設置するもの。

Q. 仮設タンクの設置場所の確保はできるのか。

A. 野鳥の森も必要であれば伐採するなどして、用地の確保を行うので場所については問題ないと思量。

以 上

プラント状況（本店レク）議事メモ

日時：平成 23 年 4 月 23 日（土）12:10～13:00

場所：東京電力本館 1 階 101 A B 会議室

先方：記者約 45 名（カメラ 7 台）

当方：本店広報部

配布資料：福島原子力発電所事故対策統合本部の共同記者会見の実施について（11 時配布）

【質疑】

Q. 会社毎での登録はできないのか。突発的に取材する記者が変わる可能性があり、事前登録は現実的ではないと考えるが。

A. 記者毎にご登録いただきたい。

Q. これまで行ってきた定例会見はどうになるのか。

A. 午前 11 時のレクはこれまで通り行う。夕方の会見については統合本部として今後行うことになる。

Q. カメラ・運搬係等のスタッフも含めて登録しないといけないということか。

A. 夕刻に回答する。

Q. 共同記者会見の主催者はだれか。

A. 統合本部。

Q. 審査はどの組織で行うのか。

A. 保安院で実施する。

Q. どのような審査を行うのか。

A. 申請いただいた記者の過去の記事作成実績を踏まえ、統合本部として個別に確認・審査するもの。

Q. ネイビー通信田代と東京電力に取引の関係がないことを明言せよ。

A. そのような事実は承知していない。

Q. 本人確認用書類と同じ住所とは自宅住所を求めているのか。

A. 確認する。

Q. 共同記者会見の進行はどこが行うのか。

A. 司会は事務局の保安院。また、発言は細野氏を皮切りに順番に行うこととなり、その中で当社松本も入ってくる。

Q. 共同記者会見の会見時間はどの程度まで長めにとれるのか。

A. これまで各所で行ってきた説明に重複する部分があると認識。時間も含め、会見においては説明に工夫を凝らして、随時改善していきたいと考えている。

Q. 会長、社長の会見は共同会見の中で行わないという認識で良いのか。

A. その通り。なお、当社のレク（会見）においても通行証については共同会見と同一の

H23.04.23②議事メモ.doc Last printed 4/23/2011 3:57:00 PM

ものを使用する扱いとしたい。急な会見においてはその場で対応することとしたい。

Q. 夕方の会見等で示されていた実績・パラメーターなどについては、今後どのように情報提供されるのか。

A. レクの場などを使って、臨機応変に行っていきたい。

Q. 共同会見後、ぶら下がりに対応してもらえるのか。

A. 常識的な範囲で対応する。なお、細野事務局長には時間的な制約があることが考えられる。また、これまで行ってきた東京電力の技術者へのぶら下がりについては、同等の対応がとれるよう調整していきたい。

Q. 発表主体の独立性は担保されるのか。今後、見解が統一されるということにはならないか懸念している。

A. パラメーターについては統一的なものとして公表する。また、評価は独自の見解を示すこととなる。

Q. 細野氏等の都合で、公表時間が前後することを懸念している。

A. ご意見として承る。

Q. 共同会見は何時間行う予定なのか。また、初回の25日の会見においては時間を区切ることはないのか。

A. 共同会見を検討してきた中では会見時間の長さにかかる議論はなかったと認識。

Q. 共同会見は土日も行うのか。細野氏が対応できないとなると行わないこともあり得るのか。

A. 白紙。

Q. 東京電力の午前レクの土日開催は今後どうなのか。

A. 実施する予定。

Q. 共同会見の初回開催日以降は、前日登録ルールを緩めてほしい。

A. 承った。

Q. 福島事務所の会見はどのようになるのか。

A. これまで通り4回／日実施する方針。なお、最後の会見を20時と1時間早めたい。

Q. 会見メンバーが会見中に替わることはあり得るのか。

A. 基本的には事務局長、保安院西山審議官、当社■は変わらないと認識。原子力安全委、文科省などは変わる可能性があると思う。

Q. 共同で会見を行うことになった経緯は。

A. 国民の皆さまの視点に立ち、情報を一ヵ所から出した方がわかりやすいと考えたことから。

Q. 本館1階の会見室はこれまで通り記者に提供されるのか。

A. これまで通り提供したい。場所については狭いと認識。AMの当社レクも3階の会議室で行うことなどを検討している。

H23.04.23②議事メモ.doc Last printed 4/28/2011 3:57:00 PM

Q. 共同会見に安全委員会と文科省が入っているのはなぜか。

A. 国民の皆さまの視点に立ち、情報を一ヵ所から出した方がわかりやすいと考えたことが理由ではないかと思量。

Q. 情報の受け手の立場からすると情報量が多い方が良いのではないか。また、各会見の重複部分はあまりなく、会見のほとんどが質疑であることから、共同会見とすることによる時間短縮のメリットも、あまりないのでないか。

A. ご意見として承る。

Q. 審査には東京電力も入るのか。また、審査には3/11の地震以降の実績も加味されるのか。

A. 東京電力として審査には加わらない。

Q. 統合本部の組織図を出してほしい。

A. ご意見として承る。

Q. 海外メディアに発信しないのか。通訳はどのように扱うのか。

A. 従来と変わらず海外にも情報発信していきたい。

以上

2011年4月24日 9時42分

東京電力(株)原子力立地 会議室

No. 1849 P. 1

情報共有

4/23(土) 18:30 ~ 本店レフ会

東京電力株式会社

(12枚)

官僚班、
NTA班段
← プレス会見ルーム

日時：平成23年4月23日（土）18:30~20:20

場所：東京電力本館3階ABC会議室

先方：記者約60名（カメラ10台）

当方：原子力立地本部長代理 [REDACTED]

原子力設備管理部 [REDACTED]

原子力運営管理部 [REDACTED]

本店広報部 [REDACTED]

配布資料：

- ・福島第一原子力発電所の状況
- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて【4月23日 午後4時現在】・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第二十九報）
- ・福島第一原子力発電所2号機取水口付近からの放射性物質を含む液体の海への流出について（続報19）
- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について（第三十一報）
- ・福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・福島第二原子力発電所モニタリングによる計測状況
- ・福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ（水位・圧力・温度などのデータ）4月23日13:00現在

冒頭、[REDACTED]から各資料に関して説明するとともに、午前中の記者会見の際に未回答であった内容（等）を回答。

質疑：

Q. 4号機SFP水位調査について、本日は放水しながら調査する予定かと思うが調査結果はどうか。

A. 注水前に確認した状況では、昨日確認した水位より1m程度上、使用済燃料プールの燃料上端より約3m上、温度については約84°C。注水後の状況については確認中。

Q. 温度が若干下がり、水位が上がったのはなぜか。

A. 昨日の注水の影響かと思われる。

Q. それ以外の線量や他の評価項目は。

A. 本日も雨天だったため線量計の値をカメラで読み取っていたかどうかは確認させていただく。

Q. 軽油タンクを損傷させた件について、状況を詳しく教えて欲しい。

A. 損傷させたのは軽油タンクではなく、軽油タンク間をつなぐ配管である。1号機と2号機の非常用ディーゼル発電機のそれぞれのタンク間をつないで、一時的に軽油を融通できるような構成になってある。本日14時50分頃、ガラの撤去作業を実施している際にその配管を損傷させてしまった。15時25分頃、海水の漏えいが止まった。軽油特有の臭いがなく、元々この配管が壊れていたことから、漏れた水は津波によって侵入した海水であると考えている。

Q. これから設置予定の仮設タンクは、野鳥の森を伐採して設置する予定と聞いたが、どれくらい面積を伐採するのか。

A. タンクの設置場所を確保するためにどこをどう伐採するかは検討。

また、午前中の会見で説明した設置するタンクの容量について訂正させていただく。仮設タンク1,000トンについては集中廃棄物処理施設から5,6号機周辺に移動済み。4月末までに当初12,000トン分搬入する予定であったが、遅れしており次のタンクの搬入が5月1日以降になる。従って、5月末までに27,000トン搬入と申し上げていたが、最終的に追加発注分も含めて6月頭までに30,400トン分が福島第一原子力発電所に搬入される予定。

当初の1,000トンと合わせて、31,400トンの仮設タンクが搬入される予定
5月1日以降、二週間程度おきにタンクが運び込まれる予定。搬入計画が決まった段階でお知らせさせていただく。

また、6月以降順次毎月2万トンのペースで仮設タンクを設置する予定で、万一、水処理が上手く行かなくなったら場合に備えてこのようなバックアップ体制を取っている。6月までに搬入するものについては発注済み。

Q. 設置は敷地内ということか。敷地外の設置は水がどうしても収まりきれないかたものか。

A. 基本的には敷地内での移送や水処理を検討している。敷地外という観点でいうと海に浮かべるタンクになる。

Q. では、野鳥の森の伐採は現実的ではないということか。

A. 野鳥の森は敷地内なので、タンクの設置場所がなければ森林の伐採する予定。

Q. 900mSv/h の瓦礫が見つかったとのことだが、今まで見つかった瓦礫の中で一番高かったのか。

A. その通り。

Q. 落ちていた場所を考慮すると 3 号機の原子炉建屋が爆発した際のものなのか。

A. サイズが 30cm×30cm×5 cm のコンクリート片なので、一番可能性が大きいのは 3 号機かと思うが、どこの号機のものは特定できていない。

Q. 瓦礫を回収するコンテナの数は。

A. 本日の段階で、満杯になったコンテナが 42 個で 43 個目に瓦礫を詰めているところ。

Q. 900mSv/h の瓦礫は他の瓦礫と比べて厳重に管理するのか。

A. 今のところ、コンテナに一緒に詰めている。詰めたコンテナ表面から 1 m 離れた場所で線量を測定したところ、1 ~ 2 mSv/h であった。

Q. 原子力安全・保安院は「瓦礫の撤去は長い棒で撤去した」と言っているようであるが。

A. 有人で操作する重機で回収しコンテナに詰めた。

Q. どのくらいの距離まで近づいたのか。

A. 数メートルかと思うが確認させていただく。

Q. 瓦礫の撤去する際は、1 つずつ線量を測っているのか。

A. 作業環境調査の一環で霧囲気線量を測定している。作業管理上、線量が高いものについては赤いスプレー等で印を付けている。

Q. 瓦礫撤去によって線量が下がるのか。

A. 瓦礫撤去で線量が下がるものと思われるが、詳細は確認させていただく。

Q. 15km 沖のサンプリングできていないのは波による影響か。

Q. しけである。昨日は少しデータが取れていて、ND だったり水中の濃度限

度の1倍を超えていない。

Q. 波の影響でシルトフェンスの状況に変化はないのか。

A. 防波堤の中にあるのでシルトフェンス自体が波で痛んでいるということでない。

Q. 31,400トンは低濃度汚染水用に用意をするということでいいか。

A. 現在予定しているのは、低濃度、中濃度、高濃度の三種類に分類する予定。低濃度は $10^2\sim10^3\text{Bq}/\text{cm}^3$ 程度まで、中濃度は $10^0\sim10^2\text{Bq}/\text{cm}^3$ まで、高濃度は $10^2\sim10^6\text{Bq}/\text{cm}^3$ までということで分類する予定。

タンク自体は各濃度でさほど変わらず、中濃度の物は周りを土で覆ったり、高濃度については耐腐食性や耐放射線対策を施すことを考えており、地中に保管することで周辺の線量低減を図る予定。31,400トンは中低濃度用のタンクを予定している。

Q. 6月の頭までに31,400トンの中低濃度用のタンクを用意し、7月以降20,000トンずつ増やしていく理解でよいか。

A. 6月の頭までに31,400トンの中低濃度用のタンクが来て、さらに、6月以降20,000トンずつ増やしていく。

Q. 高濃度用のタンクにコーティング材等は検討しないのか。

A. 耐腐食性や耐放射線対策を施す必要があると考えているが、まだ確定していない。

Q. 野鳥の森へのタンク設置は決定しているのか。

A. 発電所の中に設置場所を考えている段階で、仮に3万m³でのタンクが高さ2mと仮定しても15m²という面積が必要であり、汚染水の移送ルートをふまえて配置計画を作っているところ。

Q. 高濃度用タンクに移送する汚染水はどこのものを予定しているのか。

A. 現時点では、高濃度に分類される 10^6 オーダーの2号機タービン建屋の溜まり水や1号機、3号機タービン建屋の高濃度の溜まり水など、水処理施設で処理できないものなどを移送する予定。

Q. 900mSv/hの瓦礫を撤去した作業員の健康状態は。被ばく線量は。

A. 5m離れた作業で作業しており、5m離れた場所の空間線量としてが1~

2 mSv/h 程度で、当該作業員のその日の作業線量は 3.17mSv であり、大きな被ばく線量ではないと考えている。

Q. 中低濃度のタンクはどのような水を移送する予定か。

A. 中低濃度については具体的に決まっていないが、サブドレンの水等の濃度の薄い水になると思われる。

Q. 搬入するタンクの容量が増えているが、いつの段階で増えたのか。

A. 具体的にいつかは把握していないが、水処理が上手くいかなかった場合に備えて追加の発注が必要だと考えた次第。

Q. 4月末の手配が遅れそうな理由は。

A. 大きく見ると製造の関係と考えているが、タービン建屋の溜まり水の水位の上昇から見てもまだ余裕があるものと考えている。

Q. 高濃度用のタンクは増やす予定はないのか。

A. 今後の水処理の計画に関係するので、6月頃にアレバ社の水処理の状況ふまえて発注や手続きをしてまいりたい。

Q. 水処理のスケジュールは順調か。遅れているのか。

A. 具体的な作業完了日は決まっていないが、12,000m³/日で処理する計画を進めている。

Q. 13日の清水社長の会見で「福島第一原子力発電所の1～3号機について、今回の地震の発生によって制御棒は正常に働いた」と発言しているが、地震発生から津波が来るまでの間、原子力発電所に関するデータがまだ公開されていないかと思うが、正常に停止したという事実を担保する資料を公表していただきたい。

A. 現在、検証を進めている状況で、準備ができ次第、お知らせさせていただく。当時の運転員の報告によると制御棒は全て全挿入されたと聞いている。

Q. ストロンチウムを摂取するとガンを起こすおそれがあるが、ストロンチウムに関する調査結果は。

A. 現在、分析中で準備でき次第公表する。

Q. 瓦礫撤去は作業したのは1人だけか。どのような機械を使う。

A. 確認させていただく。

Q. 配管から漏れた水の線量は測っていないのか。

A. 周辺の線量と変わらないため測定していない。

Q. 4号機使用済燃料プールの耐震性上、どのような支持構造になっているのか。

A. 支持構造については、プール床面と壁による支え。

Q. 原子力安全・保安院から指示文書が出ているかと思うが、4号機の使用済燃料プールの耐震強化は現在実施しているのか。具体的にどのような評価をしているのか。

A. 写真で確認する限り、建屋外側の損傷があり、内部もそれなりに壊れていると考えている。原子力安全・保安院からご指示があった通り、基準地震動を目安に耐震性の確認を進めている段階。プールの底の部分に補強用の柱が必要ではないかということで準備しているところ。

Q. 余震等をふまえると緊急性があるのではないか。

A. できるだけ早く解析をして工事に取りかかりたいと考えている。

Q. 3号機の瓦礫撤去作業の目的は。

A. 3号機原子炉建屋周辺に大型の機材等を持ち込むために瓦礫の撤去作業をしている。

Q. 有人作業か。

A. 基本的に遠隔操作による無人作業だが、今回は高線量のがらの隣に重要な配管があったため、それを傷つけないために有人作業していた。

Q. ロボットの作業する場合でも、高線量箇所には赤いマーカーで印を付けているのか。

A. 有人で作業する前に、必ず作業環境の確認でサーバイメータを持った管理員が調査しており、その際に高線量箇所が見つかったので赤いスプレーでマークしている。

Q. 地震当初のパラメータの採取について。先週の土曜日時点で、中操の線量が高く、どういったデータの取り出し方になるかわからず、まだ中操にあると

聞いたが、その後状況が変わったのか。

A. 確認させてほしい。

Q. 先ほどの答えだと中操から取り出せたと聞こえたが。

A. 採取後にデータ自体の確認をする必要があることから、その部分を含めて確認中と申し上げたもの。

Q. どういった状態でデータはあるのか。中操にあるのか。

A. 中操にあり、紙の記録計や計算機の内部の磁気ディスクなどに保存されていることが考えられるが、それらの記録がどのような状態にあるか確認しているところ。

Q. 線量が高く、取り出せないということでよいか。

A. 中央制御室の線量が高いことからパラメータの確認のためだけに中操に行くことになるが、今の段階で記録の取り出しを行ったかについては確認させてほしい。

Q. 4号S Fプールの支持構造について。壁で支持することだったが、建屋の壁ということか。

A. 通常の状態であれば、プールの真下の壁のこと。耐震力を持たせない壁もあるが、S Fプールの場合は耐震壁で支えている。

Q. 4号機の場合は4階のフロアの外壁も穴が開いているが、当該外壁も意味のあるものだったのか。

A. 当該外壁も意味のあるもの。オペフロより上の壁は機密性、天井クレーンを支えるためのものであり、オペフロ以下の壁は耐震性を担保させるための壁。4号機においてはオペフロ以下の壁に一部穴が開いていることから、S Fプールの耐震性についてはもう一度評価をする必要がある。

Q. 1号機の建屋が爆発を起こした際には、下のコンクリート構造は無事で、上部の鉄板部分だけが吹っ飛んだとの説明を受けたが、4号機はコンクリート部分がやられたという理解でいいのか。

A. よい。

Q. 3号機についてはどうか。1号機よりも下方の壁がやられていたように思うが。その場合S Fプールの耐震性を評価するべきだと思うが。

A. 写真等をみながら影響の範囲について確認していきたい。

Q. 神奈川が停電とのことだが。

A. 19時現在。中野区を中心に4,000軒、神奈川県で1,000軒、茨城県の稲敷市で200軒。原因は調査中。

Q. 非常用DG用の経由タンクの配管に傷がついたとのことだが。資料に記載されていないが。

A. 先ほど発生した事象であることから、口頭で説明させていただいた。

Q. 作業員の被曝についても資料に掲載しないのか。

A. 同じ。

Q. 25日の統合本部共同会見について。平等党はHPやマーリングリストによる情報発信を行っており、1~7の項目に該当しないが参加できないのか。

A. 本件にかかる問い合わせは、保安院にお願いしたい。また、カメラマン、急遽変更が入った記者については当日受付をさせていただく予定。運搬に関わる方については一時立ち入りパスをお配りしたい。

Q. 8/11の原子炉状態把握について。地震発生直後は原子炉の数値的な把握ができないとしてきていたが、11日の15:42に全交流電源が喪失し10条通報を行い、さらに16:45にECCSの停止ということで16条通報を行っている。通報はそれぞれ、どういった根拠で行ったのか。

A. 全交流電源喪失については、非常用DGが起動していないことを中操のランプが消えたことで確認でき、その時点で判かったのではと考えている。また、ECCSの停止についても制御電源が落ちたために稼働の有無を確認できなかつたことから通報したもの。

Q. 第二波の津波が来た15:35時点でも中操において計器の読み取りができるのか。

A. 第二波が来た時間が電源の落ちた時間ではないと考えている。第二波が来て、津波が敷地に上がり、T/Bに入り込み、電源装置や非常用DGを冠水させたのではないかと考えている。

Q. 交流電源を喪失した時間の推定はできていないか。

A. 今のところ、号機ごと、非常用DGごとにいつ起動不能になったのかの把

握はできていない。

Q. 16:45 の E C C S については、冷却系が落ちたのではないかという推測に基づいて通報したということでよいのか。

A. 炉心冷却系の運転状況の確認ができないことから通報した。

Q. 16:45 の時点では電源は水没していたということでよいのか。

A. どこまで水没していたかは不明だが、使用不能な状態であったと思う。

Q. 通報は誰から誰にするものなのかな。

A. 発電所長から経済産業大臣。

Q. 1号機の熱交換機について水冷をあきらめて空冷に決めたとの報道があるが、いかがか。

A. 水冷か空冷かまだ決めたわけではなく、どちらのやり方が早くも安定的か検討しているところ。

Q. 瓦礫の件。900mSv というのは際だって高く、あとは 100~200mSv と思ってよいのか。

A. 当該コンクリート片は 900mSv であり高いと認識。

Q. 昨日の説明のとおりコンテナの総量は 43 個でよいのか。

A. 42 個が満杯で、43 個目に詰め込んでいる状態。900mSv は何個目に入れたかは不明。

Q. 瓦礫の撤去状況は現状どうか。

A. まだ継続している。3・4号機の超高压開閉所付近と旧事務本館付近は終わったが、現在 1・3 号機の原子炉建屋周辺の撤去作業を行っているところ。まだ、2・4号機まわりの撤去はまだであり引き続きやっていく必要がある。

Q. まだ 3 号の一部しか終わっていないということだが、コンテナがもうないという中でどうするのか。

A. トータルのコンテナ数は 200 個であり、まだ余裕がある。

Q. 2号 T/B とトレンチの水位が下がらないが、ポンプを増やせば解決するのか。

A. 当該水位に変化がないことから、ポンプで吸い上げた水と同量の水がどこからか入ってきてていると思量。従って、ポンプの数を増やせば減少傾向が出るのではないかとは思うが、少なくともこの一両日中はポンプ1台で移送を行う。

Q. 高濃度の汚染水について。シルトフェンスの内側をみると放射能量があまり下がっていないがその評価は如何か。また、デオライトの吸着を調べる予定があるのか。

A. シルトフェンスの内側はあまり下がっていないことをもって、拡散が防げていると認識。従って、過去のサンプリングにおいても、シルトフェンスの外側については拡散により薄まっており、シルトフェンスの内側では対流しているのではないかと考えている。ゼオライトの効果は、今後、土壌を引き上げて吸着効果を確認する。

Q. 高線量の瓦礫が見つかったのが20日で、撤去をしたのが21日で、発表が今日だが、発表が遅くなったのはなぜか。

A. 線量に特異なものがあったということについて発表することとしたもの。特段意図があったものではない。

Q. 保安院への報告は今日なのか。

A. 1Fの緊急対策本部に保安検査官が常駐しており、既知だと思う。

Q. 今後も高線量の瓦礫が確認されるのではないか。

A. しっかりと線量管理を行いながら撤去作業を行っていきたい。

Q. 高線量の瓦礫は建屋の低いところから飛んできたものか。

A. 上か下かは不明。30センチ四辺のコンクリート片であり、一番近い3号機のものと考えられるが、1号から飛んできたことを否定することはできない。

Q. 中操に記録が残っているということであったが、紙であったり磁気データであったり、どういったデータが残っているか、残っている可能性があるカリストのような形で示してほしい。

A. 準備したいと思う。重要なパラメータである原子炉水位や圧力といったものは紙のチャートで記録されているはず。

Q. 本日6時現在で、100mSvを超えた作業員が30人いるとの話だったが、放射線管理が各社ごとの考えにもよるとの話だったが、100mSvを超えた作業員

のうち 27 名は東京電力だが、東京電力はどういった考え方なのか。

A. 大原則は 250mSv を超えないこと。100mSv 超えたものについては作業環境をよく確認した上で作業を行う。

Q. 250mSv ぎりぎりまで作業を行わせるということか。

A. ぎりぎりまでやるという訳ではなく、事務所で作業するということも含めて作業管理を行っていきたい。

Q. 先ほどの瓦礫の件については、線量マップを出していれば隠していると思われなくてすんだのではないか。

A. 線量マップについては準備をしているところ。作業員にとって必要であり、1F の緊急時対策本部などに掲示している。

Q. 水の処理について。1万から 1/1,000 にできるということだったが、どの程度の濃度についてこのようなことができるのか。

A. 10 の 6 乗といったオーダーの水を、1/100 から 1/10,000 に低下できるような装置を現在検討しているところ。

Q. 以前、低濃度の汚染水を放水した際に「人間が 1 年間魚を食べた際の影響」について説明を受けたが、今回、高濃度の汚染水の排水量を発表したが、「人間が 1 年間魚を食べた際の影響」について発表しない理由は何か。

A. 今後、サンプリング等を行いながらどのくらいの濃度が吸収されていくか確認していきたい。湾内に閉じこめる措置を講じたことから、拡散の仕方が異なることから評価する必要があると思っている。

Q. 11 日のデータ。14:46 に地震が起きてから 15:42までの紙のチャートはあるということでよいか。

A. あるのではないかと考えている。

Q. 磁気、計測器の打ち出しについてはある可能性があるという理解でよいか。

A. 紙はあるのではないかと考えている。磁気ディスクについては後から取り出せるのかについては不明。

Q. 瓦礫を入れているコンテナは遮蔽措置をとっているのか。

A. 遮蔽措置は講じていない。ふたを閉めていることから、雨水の浸入はないのではないかと考えている。

Q. 瓦礫を入れてコンテナのモニタリングは随時行っているのか。

A. 瓦礫を入れたときの表面線量については測っているが、周辺でどのくらいかについては確認させてほしい。

以上